

# Newsletter

—学会会報—

The Japanese Society for Curriculum Studies

発行：日本カリキュラム学会事務局

## 目 次

〈理事会報告（2022 年 7 月 1 日）〉

■ 審議事項

I 総会議事

II 各種委員会の 2021 年度活動報告および 2022 年度活動計画について

III 次期大会開催校（大阪教育大学）について

IV その他

■ 報告事項

V 事務局報告

VI その他

〈総会報告（2022 年 7 月 10 日）〉

〈「秋のセミナー2022」オンライン開催（公開）のお知らせ（第一次案内）〉

〈事務局からのお知らせ〉

---

---

## 理事会報告（2022 年 7 月 1 日）

---

---

定例理事会が、7 月 1 日（金）16 時 30 分から 18 時 50 分まで、Zoom を用いたウェブ会議形式で開催された。事務局 3 名を含む 29 名（うち理事 27 名）の参加があった。

審議に先立ち、松下代表理事より、開会に関する挨拶ならびに大会に係る準備等に対する御礼が述べられた。

### ■ 審議事項

#### I 総会議事

二宮事務局長より、資料に基づき、「第 33 回大会総会 議事次第」の内容に関する説明があった。

まず、議長団の選出について、通例に基づき、第 33 回大会実行委員会担当理事として柴田理事、

第 34 回大会実行委員会担当理事として木原理事に担当いただくことが提案され、提案の通りに進めることとなった。

次に、会員総数について、前年度は 712 名、前々年度は 714 名であったが、検討用の資料に記載されていないため、加筆することとなった。

「2021 年度決算報告・監査報告」について、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により定例理事会や各種委員会活動、第 32 回大会、秋のセミナー、研究集会がオンラインでの開催や活動となったため、学会運営に関わる支出が減少したこと、および、会計の状況としては、特に問題点や不明瞭な点はなかったが、繰越金が増加しているため、何らかの形で会員に還元する取り組みを検討することの必要性が提起されたことが報告された。本件については、2022 年度に予定されている学会業務の ICT 化のための支出が見込まれることと、さらなる余剰分については個々の会員への還元方法の検討が必要であることが確認された。

続いて、「2022 年度予算案」において支出の部の項目として計上されている「会合費（交通費他）」について、理事会等を対面で開催することを念頭に置いた予算額となっていることが確認されるとともに、対面開催にする場合、以前のように研究集会ならびに秋のセミナーとの同日開催を行う可能性を検討することの必要性が提案された。

さらに、第 33 回大会実行委員会柴田事務局長より、大会のウェブサイトや運営に関する説明がなされるとともに、現時点で約 250 名が参加予定であることや、司会マニュアル等の配布に関する予定、登壇者との打ち合わせの進捗状況等が報告された。

## II 各種委員会の 2021 年度活動報告および 2022 年度活動計画について

### 1. 紀要編集委員会

磯田委員長より、資料に基づき、報告があった。

まず、『カリキュラム研究第 31 号』の工程について報告されるとともに、理事ならびに関係者各位による協力への御礼が述べられた。次に、2022 年度紀要編集日程についての報告があった。

続いて、電子投稿・査読システム導入に関する検討の進捗状況が報告された。電子投稿・査読システム導入に向けた手順については、2023 年春に刊行される 32 号に電子投稿の導入を踏まえた論文投稿規程等を掲載し、33 号から導入することが提案された。

また、電子投稿・査読システム導入に関する検討課題として、「規程・内規」「査読体制」「査読プロセス」「投稿受理後の原稿チェック」に関する改善や見直しが挙げられ、それぞれに関する問題点と対案が示された。審議の結果、次回の総会では、「投稿と査読に関する ICT 化を検討している」ことと、「次号の査読者の選定については、これまで通り理事に依頼することを基本としつつも、理事以外の方をお願いする可能性もある」ことを提案し、各検討課題の詳細については、総会後に詰めていくこととなった。

### 2. 国際交流委員会

澤田委員長より、資料に基づき、報告があった。

まず、学会紀要の「海外カリキュラム研究情報」の執筆について、アメリカ合衆国の Matthew Knoester 氏に快諾いただけたこと、寄稿予定の論文タイトル（仮）は“Anatomy of another progressive school destroyed”（またもや破壊された進歩主義的学校の解剖）であること、翻訳者は未定であることが報告された。あわせて、翻訳者の推薦依頼がなされた。

続いて、今年度大会課題研究の企画について、倉本副委員長を主なコーディネーターとして、

教師教育カリキュラムについて Lesson Study 及び curriculum management という両要因を軸に海外の研究者を招聘して議論する方向で実施すること、使用言語は日英両語とし、Zoom 同時通訳機能を利用すること、同時通訳業者として NHK グローバルメディアサービスと契約済であること、通訳に係る費用は大会校が管理する大会費からではなく学会費から直接補填されること、登壇者の研究関係者複数名から課題研究の視聴参加の希望があったこと、本学会の海外研究ネットワークを拡大する貴重な機会と捉えて登壇者の研究関係者の本課題研究への無料での参加を認めることになったことが報告された。

### 3. 研究委員会

上地委員長より、資料に基づき、報告があった。

まず、2022 年春の研究集会の報告が行われた。

次に、第 33 回名古屋大学 Web 大会における課題研究 I および III について、報告者や指定討論者、司会、コーディネーター等に関する報告があった。

続いて、2023 年研究集会については今後、研究委員会で検討して秋の理事会に具体案を提出する予定であること、および次年度（第 34 回大会）の課題研究について、次年度の大会での課題研究についても例年通り 2 本の企画を研究委員会で進める予定であることが報告された。あわせて、研究集会については、開催方法（対面開催、オンライン開催、ハイブリッド形式での開催）についても検討することの必要性が確認された。

### 4. 広報・若手育成委員会

根津委員長より、資料に基づき、報告があった。

まず、課題研究について、中留武昭元理事（退会済み）にご登壇いただくこととなったこと、中留武昭元理事が博多からオンラインで参加される予定であること、接続サポートのため委員会から根津理事が派遣されることが報告された。

次に、「若手育成」関連企画について、2022 年 2 月 23 日に開催された「若手育成セミナー」参加者から実行委員を募り、4 名の学生会員（当時）が応じてくださったこと、2 度のオンライン会議を経て大会の自主企画セッション申込が決定したこと、オンラインで 4 名より進捗の報告を受けたこと、大会後に別途、2023 年 2 月の「若手育成セミナー」について実行委員と企画する予定であることが報告された。

さらに、秋のセミナー2022 について、現時点では詳細未定であるが、内容としては一般向けを意識しつつ、11 月にウェビナー形式で開催する方がよいのではないかということが提案された。会場確保の難しさや新型コロナウイルス感染症の流行状況の不透明さに対する懸念、対面開催ならびにハイブリッド形式での開催の可能性などについて意見交換がなされた。本件については、今後、これらの意見も踏まえつつ、広報・若手育成委員会の中で検討を進めることとなった。

### 5. 学会賞委員会

小柳学会賞委員長より、資料に基づき報告があった。

まず、2021 年度の研究奨励賞について、福嶋祐貴氏の『米国における協働的な学習の理論的・実践的系譜』（東信堂、2021 年）が対象として決定したことおよびその理由が報告されるとともに、2022 年の大会総会にて授与式を行い、小柳委員長より受賞者と授賞理由の報告、代表理事より表彰状と副賞の授与、受賞者より受賞スピーチという流れで進めることが報告された。

次に、「2022 年度 日本カリキュラム学会 学会賞 優秀発表賞」について、第一段投票の依

頼、ならびに手続きの流れの説明が行われた。あわせて、第一段投票用紙案が紹介され、その内容に沿って投票手続きが行われることとなった。

さらに、「日本カリキュラム学会 優秀発表賞及び研究奨励賞に関する規程」の修正案が示されるとともに、「日本カリキュラム学会 学会賞 優秀発表賞及び研究奨励賞細則」が確認された。修正案として示されたのは、「4. 応募の方法：優秀発表賞の場合は、研究大会の発表申込時に、候補者になることを申し出る。研究奨励賞の場合は、会員の自薦または他薦によって、毎年9月30日(必着)までに所定の推薦書により申し出る。なお当該年度を含み過去2年間の間に本学会誌に掲載された被選考者(入会后2年以上15年以下の学会活動歴を持つ会員)の論文は推薦書による申し出を必要としない。」という記述における下線部の内容であった。本件について、「前年度からの会費を納入していること」などの記述の方が分かりやすいのではないかという意見が出され、今後、学会賞委員会の中で検討を進めることとなった。

### III 次期大会開催校(大阪教育大学)について

第34回大会実行委員会委員長の木原理事より、資料に基づき報告があった。

まず、2022年4月6日に大会実行委員会が開催されたこと、ならびに、大会校所属の会員一覧と各会員の役割が報告された。

次に、大会日程については「2023年7月8日(土)、9日(日)」となったこと、ならびに、会場も予約済みであることが報告された。また、理事会は2023年7月7日(金)夕刻に開催するかたちで進めることが確認された。

シンポジウムについては、「ダイバーシティとカリキュラム」をテーマとし、八田幸恵会員がコーディネーターと司会を務めるかたちで進める予定であることが提案された。本件に関して、シンポジウムと広報・若手育成委員会による課題研究(長尾元代表理事ご登壇予定)について、テーマや登壇者に関する重複の可能性があるかもしれないことが指摘された。審議の結果、シンポジウムの登壇候補者等を2022年11月の理事会で報告いただき、その後、シンポジウムに関する内容もふまえて、広報・若手育成委員会による課題研究の登壇者等の詳細を決めるかたちで進めることが確認された。

### IV その他

次年度以降も大会がオンライン開催となった場合、課題研究を録画し、大会参加者限定で公開するなどの対応を行うことによって、時間帯の重複した課題研究について後日視聴できるようにしてはどうかという意見が出された。

### ■報告事項

#### V 事務局報告(後掲の「事務局からのお知らせ」を参照)

二宮事務局長より、資料に基づき、「会員現況概要」「寄贈図書一覧」「会計監査」に関する報告がなされた。

## VI その他

次回の定例理事会について、以下の要領にて開催する予定であることが確認された。

日時：2022年11月に開催することとし、具体的な日時については改めて日程調整のうえで決定する。

※ 日程調整の結果、2022年11月20日（日）10時から12時30分に開催することとなった。

開催方法：Zoomを用いたウェブ会議のかたちで開催

---

---

## 総会報告（2022年7月10日）

---

---

日本カリキュラム学会の第33回大会総会が、第33回名古屋大学 web 大会の2日目（2022年7月10日）の12時45分から13時18分まで、柴田好章理事（今期（第33回）大会校／名古屋大学）と木原俊行理事（次期（第34回）大会校／大阪教育大学）を議長団として、開催された。今回も昨年度と同様に、Zoomのウェビナーを用いたオンラインでの開催となり、61名の会員の参加があった。

総会では、開会の辞、代表理事挨拶、大会校挨拶、議長団選出の後、「第33回大会総会 議事次第」に基づき、「第32回大会年度（2021年度）活動報告について」、および、「第33回大会年度（2022年度）活動方針案について」の説明と提案が行われた。「第33回大会年度（2022年度）予算案」に関して、総会に出席されていた会員より、オンライン形式で開催されている他学会の大会については参加費無料というところが多いこと、ならびに、次年度繰越金が多くなっていることや会員への還元の必要性についての議論が出てきていることなどをふまえ、今年度の大会参加費を会員に関しては無料とすること、また、納入済みの大会参加費については次年度の年会費に回すこと、そうした使途も含めて理事会で議論してもらいたいこと、などの提案・要望が出された。本件については、いただいた提案・要望もふまえて今後の理事会で議論を行っていくこととなった。以上の内容を理事会での審議事項に加えることを条件として、2022年7月1日（金）の理事会で承認された議案が、すべて承認された。

議長団解任の後、第34回大会（2023年度）の大会校である大阪教育大学の木原俊行理事より、次期大会の準備・運営に対する抱負が述べられた。さらに、日程については2023年7月8日（土）・9日（日）であること、会場は大阪教育大学天王寺キャンパスを予定していること、現時点では対面形式での実施を予定していることが報告された。

総会終了後には、研究奨励賞授与式が執り行われた。小柳和喜雄理事（学会賞委員長）より、受賞者である福嶋祐貴会員（『米国における協働的な学習の理論的・実践的系譜』東信堂、2021年）の紹介、ならびに、その選考過程と受賞理由が説明された後、松下佳代代表理事より、研究奨励賞受賞に対する祝辞と、審査にあたった理事各位への御礼が述べられた。そして、福嶋祐貴会員より、受賞対象となった著書の内容、研究の経緯、指導教員をはじめとするすべての関係者への御礼、今後の研究に向けた抱負と決意が述べられた。

※このニューズレターの6～10ページに、当日配布資料を掲載。

## 第 33 回大会総会 議事次第

新型コロナ感染拡大のためオンライン会議にて実施

2022 年 7 月 10 日 12:45～13:20

### 1. 開会の辞・代表理事挨拶

### 2. 大会校挨拶

#### [議長団選出]

### 3. 第 32 回大会年度（2021 年度）活動報告について

#### （1）一般活動報告

##### ①現況概要（2022 年 6 月 27 日時点）

会員数や会費納入状況は以下の通りである。

会員現況概要（2022 年 6 月 27 日時点）

会員総数 706 名（一般会員 628、学生会員 71、団体会員 7 件）

※連絡先不明者名、未納退会希望者、会員一時資格停止者 31 名を含む。

（2021 年度：712 名、2020 年度：714 名）

会費納入率（2022 年 6 月 27 日時点）

2021 年度：完納 635 名 未納 21 名 計 656 名 96.7%

※連絡先不明者 6 名含む、会員一時資格停止者 31 名除く。

（2020 年度：94.2%、2019 年度：93.8%）

##### ②第 32 回大会報告

日本カリキュラム学会第 32 回大会は、新型コロナウイルス（COVID-19）の感染拡大防止の観点から Zoom を活用したオンライン形式で、2021 年 6 月 26 日（土）・27 日（日）の日程で開催された。第 32 回大会では、例年と同様に、シンポジウムと 4 つの課題研究、自由研究発表、そして自主企画セッションが開催された。自由研究発表では 2 日間で 13 分科会が設けられ、43 件の発表、自主企画セッションでは 3 つの発表が、Zoom ミーティングを活用して実施された。大会の参加者数は、249 名であった。『カリキュラム研究』第 31 号、および Newsletter の第 87 号に大会関連の報告を掲載した。

##### ③学会誌『カリキュラム研究』第 31 号発行

##### ④Newsletter 第 86・87・88 号発行

2021 年 10 月 14 日に 86 号、2022 年 1 月 31 日に 87 号、2022 年 6 月 6 日に 88 号を発行した。

## ⑤研究奨励賞選考結果

福嶋祐貴会員

『米国における協働的な学習の理論的・実践的系譜』東信堂、2021年。

\*総会終了後、授与式を行います

## ⑥会員勧誘の結果（2021年度内）

新入会員 40名（参考：昨年度 35名、一昨年度 44名）、2022年度入会者は、6月27日までに19名となっている。

## ⑦秋のセミナー2021の開催

日時：2021年11月14日（日） 13時30分から16時30分

開催方法：オンライン開催（Zoomのウェビナー）

テーマ：働き方改革のためのカリキュラム・オーバーロードへの対応事例

報告者：住田昌治（横浜市立日枝小学校校長）

「持続可能な学校づくり：教職員のハッピーが子どもの笑顔になる」

森俊郎（岐阜県養老町立小学校教務主任）

「エビデンスにもとづく学校改善：働き方改革の視点から」

指定討論者：田村知子（大阪教育大学）

司会：金馬国晴（横浜国立大学）、子安 潤（中部大学）

## ⑧第12回研究集会の開催

日時：2022年3月6日（日） 13時30分から16時15分

開催方法：オンライン開催（Zoomのウェビナー）

テーマ：カリキュラム研究の観点から「協働的な学び」を考える

報告者：福嶋祐貴会員（京都教育大学連合教職実践研究科 講師）

主著：『米国における協働的な学習の理論的・実践的系譜』東信堂、2021年

宮野尚会員（日本学術振興会 特別研究員〔PD〕）

主著：『ウィネットカ・プランにおける教職大学院の成立過程』風間書房、2021年  
コーディネーター・司会：上地完治（琉球大学）、西岡加名恵（京都大学）

## ⑨若手育成セミナーの開催

2021年度から若手育成の新企画として、広報・若手育成委員会による「学生会員」を対象とする継続的な研究会が実施されることになった。2021年度は、2021年9月20日と2022年2月23日に開催された。

## ⑩「優秀発表賞」の設置と「研究奨励賞」の選考方法の変更

詳しくは、『カリキュラム研究』あるいは学会HPに掲載の「優秀発表賞及び研究奨励賞に関する規程」を参照

## ⑪その他

## (2) 2021 年度決算報告・監査報告

【総会資料 1】

2022 年 6 月に会計監査を行なった。2021 年度も、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により定例理事会や各種委員会活動、第 32 回大会、秋のセミナー、研究集会がオンラインでの開催や活動となったため、学会運営に関わる支出が減少したとの報告があった。会計の状況としては、特に問題点や不明瞭な点はなかったが、繰越金が増加しているため、何らかの形で会員に還元する取り組みの必要性が提起された。

## 4. 第 33 回大会年度（2022 年度）活動方針案について

### (1) 一般方針

- ①年次大会（第 33 回大会）の実施：名古屋大学を開催校としてオンライン開催
- ②第 34 回大会（2023 年度）の準備：大阪教育大学にて開催予定
- ③学会誌『カリキュラム研究』第 32 号発行
- ④優秀発表賞および研究奨励賞の選考
- ⑤秋のセミナー2022 の開催
- ⑥第 13 回研究集会の開催
- ⑦若手育成セミナーの開催
- ⑧Newsletter、その他の広報活動
- ⑨会員勧誘
- ⑩学会業務の ICT 化
- ⑪その他

### (2) 2022 年度予算案

【総会資料 2】

## [議長団解任]

## 5. 第 34 回大会(2023 年度)開催校について

大阪教育大学

## 6. 閉会の辞

【総会資料 1】

2021 年度決算報告・監査報告

日本カリキュラム学会  
 第32回大会年度（2021年度）決算報告書  
 (2021年4月1日～2022年3月31日)

収入の部

項目	予算額 (円)	実績 (円)
学会年会費	5,000,000	5,563,000
入会金	80,000	84,000
学会誌代・雑収入・利子等	50,000	33,034
第32回大会収入(除く補助費)	700,000	696,000
寄付	0	0
前年度繰越金	8,055,321	8,055,321
合計	13,885,321	14,431,355

支出の部

項目	予算額 (円)	実績 (円)
第32回大会補助費	0	0
第32回大会支出(除く補助費)	1,800,000	1,519,559
第31号紀要刊行費(含む発送費)	700,000	562,305
学会研究奨励賞費	0	0
会合費(交通費他)	1,300,000	0
事務局経費	150,000	40,912
事務局外部委託費	1,600,000	1,714,821
ホームページ委託運用費	250,000	190,300
財)日本学術協力財団賛助会費	50,000	50,000
教育関連学会連絡協議会会費	10,000	10,000
各種委員会経費		
紀要編集委員会	100,000	40,575
研究奨励賞審査委員会	100,000	23,500
国際交流委員会	100,000	0
研究委員会	300,000	89,096
広報・若手育成委員会	300,000	48,040
(小計)	900,000	201,211
理事・代表選挙経費	0	0
予備費	200,000	0
次年度繰越金	6,925,321	10,142,247
合計	13,885,321	14,431,355

本簿について監査しました。

2022年 6月 15日

上野正道   
 護利誠 

【総会資料2】

第33回大会年度(2022年度)予算案(2022年4月1日～2023年3月31日)

収入の部

項目	予算額(円)	備考
学会年会費	5,000,000	過去2年分の実績にもとづく
入会金	80,000	○40名見込み(過去2年の実績による)
学会誌代・雑収入・利子等	50,000	
第33回大会収入(除く補助費)	700,000	○大会参加費を値下げしたため(200名参加と広告費で算出)
寄付	0	
前年度繰越金	10,142,247	
合計	15,972,247	

支出の部

項目	予算額(円)	備考
第33回大会補助費	0	○新型コロナの影響により現地開催が中止となり、web大会となったため大会校と相談した結果、補助費として事前支払いをしないこととなった。
第33回大会支出(除く補助費)	2,100,000	○前年度までの大会実績にもとづく
第32号紀要刊行費(含む発送費)	700,000	J-STAGE掲載経費を含む
学会研究奨励賞費	50,000	2021年度受賞者の副賞
会合費(交通費他)	1,300,000	○通常通り、定例理事会を開催できると見込んでの計上。夏以降の理事会もZoomによる開催となる場合、減額となる。
事務局経費	150,000	
事務局外部委託費	1,600,000	委託先「国際文献社」
ホームページ委託運用費	250,000	アーカイブ経費を含む
財)日本学術協力財団賛助会費	50,000	執行済
教育関連学会連絡協議会会費	10,000	
各種委員会経費		
紀要編集委員会	100,000	
国際交流委員会	100,000	
研究委員会	300,000	
広報・若手育成委員会	300,000	
学会賞委員会	100,000	○研究奨励賞審査委員会からの名称変更
(小計)	900,000	
理事・代表理事選挙経費	300,000	○前回の実績にもとづく
学会業務のICT化のための経費	1,500,000	○電子投稿・査読システムと電子投票システムの導入等
予備費	200,000	
次年度繰越金	6,862,247	
合計	15,972,247	

備考欄の○は昨年度から変更等がある項目

---

---

## 「秋のセミナー2022」オンライン開催（公開）のお知らせ（第一次案内）

---

---

### 教員免許更新制の「その後」と教師の学びを考える

#### 企画趣旨：

2007年の法改正により、2009年から教員免許更新制が開始され、十数年経過した。2022年5月11日、「教育公務員特例法及び教育職員免許法の一部を改正する法律」が成立し、同年7月1日、教員免許更新制は「発展的に解消」された。関連して「研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励に関するガイドライン」についてパブリック・コメントが行われ、7月29日で期限を迎えた。同ガイドラインは8月31日付で正式に策定され、「公立の小学校等の校長及び教員としての資質の向上に関する指標の策定に関する指針（令和4年8月31日改正）」とあわせ、文部科学省のホームページで公表されている。

以上の動向は、教育関連の諸学会においてシンポジウム等で扱われており、「カリキュラムと教師」というテーマからみても興味深い。今回の「秋のセミナー」により、改めて考える機会としたい。

#### 主催：

日本カリキュラム学会（担当：広報・若手育成委員会）

#### 日程：

2022年11月23日（水・祝）13:30～16:30（予定）

#### 報告者：

行政、大学、関連機関から登壇予定

#### 参加費、参加資格：

無料です。公開ですので、会員以外の参加も可能です。

※ただし、録画・録音は禁止とします。

#### 参加方法：

Zoom を用います。詳細は学会 HP（<http://jcs.b.la9.jp>）で、後日お知らせします。

#### 問い合わせ先：

日本カリキュラム学会事務局（[jcsstaff@gmail.com](mailto:jcsstaff@gmail.com)）

※「秋のセミナー」は、日本カリキュラム学会の社会貢献的行事として、すべての学校関係者及び教職を目指す学生・院生、報道機関関係者、研究者等に公開しています。オンライン開催です、多数のご参加をお待ちしております。

## 事務局からのお知らせ

### 1. 会員現況報告 (2022年6月27日時点)

■会員総数 706 (一般会員 628、学生会員 71、団体会員 7件)

※連絡先不明者 6名、未納退会希望者 3名、会員資格一時停止者 28名を含む。

【内訳】(入会者・退会者は2022年2月21日以降の報告)

新規入会者：21名

退会・強制退会者：43名

一時停止資格者：28名

連絡先不明者：6名

2022年度の新入会者：19名 (一般：14名、学生：5名)

■会費納入率 (2022年6月27日時点)

2022年度：完納 467名 未納 208名 計 675名 69.1%

2021年度：完納 635名 未納 21名 計 656名 96.7%

※連絡先不明者 6名含む、会員資格一時停止者 28名除く。

■新規入会者 (2022年2月22日～2022年6月27日) 21名

	入会年月日	氏名	所属	区分	推薦者
1	2022/2/24	吉田 尚史	独立行政法人教職員支援機構	一般会員	天笠茂
2	2022/3/14	末永 琢也	三木市立広野小学校	一般会員	事務局
3	2022/4/1	辻 瞳	所属非公開希望	一般会員	事務局
4	2022/4/1	野村 和之	所属非公開希望	一般会員	事務局
5	2022/4/1	川田 大	所属非公開希望	一般会員	事務局
6	2022/4/1	山口 博功	大阪市立平林小学校	一般会員	田村知子
7	2022/4/1	瓦林 亜希子	都留文科大学	一般会員	事務局
8	2022/4/8	勝岡 幸雄	所属非公開希望	一般会員	事務局
9	2022/4/12	陸奥田 維彦	所属非公開希望	一般会員	田村知子
10	2022/5/2	衣川 さえ子	東京医療保健大学	一般会員	事務局
11	2022/4/18	森田 幸一郎	所属非公開希望	学生会員	事務局
12	2022/4/11	西田 隆之	丹波市立中央小学校	一般会員	安藤福光
13	2022/4/14	久保 美奈	所属非公開希望	学生会員	事務局
14	2022/4/13	周 星星	所属非公開希望	学生会員	桑原敏典
15	2022/4/12	木村 友大	所属非公開希望	学生会員	田村知子
16	2022/5/9	金子 あけみ	所属非公開希望	一般会員	事務局
17	2022/5/31	三河内 彰子	明治学院大学	一般会員	事務局
18	2022/6/1	宮島 衣瑛	所属非公開希望	学生会員	事務局
19	2022/6/8	北原 和明	所属非公開希望	一般会員	尾島卓
20	2022/5/26	野網 学	所属非公開希望	一般会員	田村知子
21	2022/6/3	田村 恵美	所属非公開希望	一般会員	富士原紀絵

※入会年月日は、入会金の振り込みがあった日付になります。会員番号は入会申し込みが届いた日になります。上記の順番は会員番号順です。

■退会者（2022年2月22日～2022年6月27日）34名

	退会日	会員名	所属機関名	会員種別
1	2022/3/31	浦野 弘	埼玉学園大学人間学部	一般会員
2	2022/5/9	江間 史明	山形大学教育学部	一般会員
3	2022/3/31	山口 満	関西外国語大学	一般会員
4	2022/3/31	吉川 幸男	山口大学教育学部	一般会員
5	2022/3/31	藤田 由美子	福岡大学	一般会員
6	2022/3/31	野原 明	文化女子大学、同附属杉並中高校	一般会員
7	2022/4/26	岡崎 美智子	西九州大学	一般会員
8	2022/3/31	高林 茂	所属非公開希望	一般会員
9	2022/3/31	横山 悦生	名古屋大学教育学部	一般会員
10	2022/3/31	降旗 孝	山形大学 地域教育文化学部	一般会員
11	2022/3/31	白鳥 信義	帝京平成大学	一般会員
12	2022/3/31	田中 雄二	新潟大学	一般会員
13	2022/3/31	下田 好行	東洋大学	一般会員
14	2022/3/31	中澤 秀一	湊川短期大学	学生会員
15	2022/3/31	池田 修	京都橘大学 発達教育学部	一般会員
16	2022/3/31	瀬戸 健	上越教育大学	一般会員
17	2022/3/31	鈴村 範子	所属非公開希望	学生会員
18	2022/3/31	北川 邦一		一般会員
19	2022/3/31	山崎 奈々絵	聖徳大学	一般会員
20	2022/3/31	戸丸 俊文	千葉県柏市立大津ヶ丘第一小学校	一般会員
21	2022/3/31	中村 元隆	日本外国語専門学校	一般会員
22	2022/3/31	川上 知子	常葉大学	一般会員
23	2022/3/31	小野瀬 剛志	仙台青葉学院短期大学	一般会員
24	2022/2/25	深谷 圭助	中部大学	一般会員
25	2022/3/31	谷 智子	高知市教育委員会	一般会員
26	2022/3/31	島田 功	所属非公開希望	一般会員
27	2022/4/26	天間 環	尚絅学院大学	一般会員
28	2022/3/31	日下 智志	所属非公開希望	一般会員
29	2022/3/31	田中 裕史	所属非公開希望	学生会員
30	2022/3/31	井上 榮子	所属非公開希望	一般会員
31	2022/3/31	梶原 正史	所属非公開希望	学生会員
32	2022/3/31	芥川 元喜	金沢星稜大学	一般会員
33	2022/3/31	幡野 順	所属非公開希望	一般会員
34	2022/4/27	坂本 徳雄	所属非公開希望	学生会員

## 2. 寄贈図書一覧（2022年2月18日～2022年6月27日到着分）

著者名	タイトル	出版社等	発行日	受領日
池田考司、杉浦真理、 教育科学研究会（編集）	みんなでつくろう! SDGs 授業 プラン：ソーシャルチェンジの ための「公共」「総合的な探究 の時間」	旬報社	2022/4/1	2022/3/8
田中怜（著）	学校と生活を接続する：ドイツ の改革教育的な授業の理論と 実践	春風社	2022/2/25	2022/3/25
B・クマラヴァディヴェ ル（著）、南浦涼介、瀬 尾匡輝、田嶋美砂子 （翻訳）	言語教師教育論：境界なき時代 の「知る・分析する・認識する・ 為す・見る」教師	春風社	2022/2/28	2022/3/25
木村裕、古田薫（編集）	教育課程論・教育評価論	ミネルヴァ 書房	2022/4/1	2022/4/11

## 3. 会計監査について

2022年6月9日の10時から、Zoomを利用した会計監査を、監査担当の上野正道会員と緩利誠会員、および、二宮事務局長と国際文献社の担当者により行った。2021年度も、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により定例理事会や各種委員会活動、第32回大会、秋のセミナー、研究集会がオンラインでの開催や活動となったため、学会運営に関わる支出が減少したとの報告があった。会計の状況としては、特に問題点や不明瞭な点はなかったが、繰越金が増加しているため、何らかの形で会員に還元する取り組みの必要性が提起された。

## 4. 令和4年度（2022年度）分会費納入のお願い

今年度分の年会費が未納の会員の方は、納入をお願い申し上げます。2022年6月27日時点での2022年度会費の納入率は69.1%です。納入促進に、会員のみなさまのご協力をよろしくお願い申し上げます。

また、前年度（2021年度）分までの年会費が未納の会員の方におかれましては、未納分の年会費の納入もあわせてお願い申し上げます。

会費納入状況につき、ご不明の点がございましたら、ご遠慮なく（株）国際文献社内・日本カリキュラム学会会員窓口までお問い合わせください。

（年会費：一般 8,000 円、学生 5,000 円、団体 10,000 円）

**【 入・退会、年会費納入、会員 web 管理、会報発送等各種問い合わせ先 】**

〒162-0801

東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター（株）国際文献社内

日本カリキュラム学会会員窓口

Tel : 03-5389-6213 Fax : 03-3368-2822

E-mail : [jscs-post@bunken.co.jp](mailto:jscs-post@bunken.co.jp)

**【 上記以外の学会運営に関する問い合わせ先 】**

〒640-8510

和歌山市栄谷 9 3 0 和歌山大学教育学部 二宮衆一気付

日本カリキュラム学会事務局

E-mail : [jscsstaff@gmail.com](mailto:jscsstaff@gmail.com)

※ 2022 年 4 月 1 日をもちまして、学会事務局のメールアドレスを変更いたしました。

**【 学会ホームページ 】**

URL : <http://jscs.b.la9.jp/>